



千葉労働委員会

国鉄千葉労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (労働組合会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939番
(公) 043(222)7207番

98.4.24 No. 4776

貨物協議会第7回総会開催

動乗勤改悪・今秋ダイ改阻止へ 総決起体制を確認



四月十五日千葉市民会館において貨物協議会第七回定期総会が、新小岩・千葉機関区両支部組合員四十名の参加で開催された。総会ではこの一年間の佐倉機関区廃止と千葉機関区移行や新小岩派出移転など基地統廃合攻撃との闘いをはじめ、98春闘でのベ・ア六百円という超低額格差回答、新フレイト21合理化との闘いを総括し、98秋ダイ改と動乗勤再改悪阻止にむけて総決起を確認した。

頭柴崎貨物協議長が以下のような挨拶を行なった。「昨年三月佐倉機関区にて第六回総会を開催し、三月の佐倉廃止をはじめとした基地統廃合、九月の新小岩の移転などを、新たな組

織体制を築き、ストライキを闘い、職場討議・役員会を積み重ねながら闘つてきました。貨物会社は新フレイト21を昨年度より開始し、六千人体制にむけた業務の部外委託・外注化は本線乗務以外の全職種におよんでいます。98新賃金交渉はベ・ア六百円で〇・一九%という最低の水準に終わりました。年令構成・平均勤続年数がほぼ同じようなJR西日本と二万七千円弱の開きがあります。会社は『赤字だから』と言いますが、その原因は分割・民営化の構造的な矛盾にあると思います。会社と一体となつたJR総連日貨労を解体しなければわれわれの未来はないと思います。98年事業計画

では、秋の白紙ダイ改に向けて基地の統廃合が明らかにされ、また動乗勤改悪を行なうことが明らかにされています。京葉線への乗り入れにむけた工事も始まります。今後動乗勤と京葉線を焦点にしながら、白紙ダイ改・基地統廃合との闘いが始まります。本日の総会を出発点に、全組合員の総決起体制をつくりあげよう。

つづいて来賓として、本部中野委員長から「貨物のもつ矛盾は構造的問題でありここにメスを入れなければ展望がでない。分割・民営化の問題は大きな正念場をむかえている。大失業と戦争の時代に突入している中の闘いになるが、貨物と旅客の

盗聴法・組対法反対の声、急速に高まる

4月18日文ホール埋める!

四・一八「つぶせ盗聴法・組対法集会」は、動労千葉や関西生コンの仲間をはじめ、闘う労働者がかつてなく参加。この法案がもつてゐる労働運動、労働組合破壊という重大な狙いをつかみとつてきた。

「組織的」ということを口実にすれば警察権力はなんでもできるというものであり、「犯罪収益」と決めつけたら物販収益はもとより、組合財産など全てを没収するというものである。多くの発言者もこの危険性を指摘し、「これは労働法制改悪と一体の攻撃であり、労働運動そのものを治安の対象とし、刑事罰で解体する攻撃であり絶対に

反対」という方針を全体で確認した。

四・一八集会には、法曹界をはじめ、学者・文化人など各界各層から五〇〇名を超える参加を実現。組対法・盗聴法反対運動を新ガイドライン関連法、労働法制改悪攻撃と一体のものとしてとらえ全力で反対運動をつくりあげることを確認した。

四・一八集会につづき、労働千葉およびかけの「四・一六集会」に全力でたちあがろう。橋本政権は、問題山積みの重圧のなかでグラグラである。われわれもここ一番、踏ん張る時一ともにがんばろう!



関係を正しくみすえながら闘つていこう。来年結成20周年をむかえるなか新しい動労千葉をつくるためにも、貨物両支部はがんばってほしい。」とあいさつをうけた。

清水事務長の基調報告のち質疑討論に入った。質疑では、DLJ検修の部外委託の問題や会社の業務能力への疑問などの意見がだされ、本部布施副委員長や貨物協議会役員からの答弁が出され、全体でこの秋に向けて闘いを開始することを確認した。最後に団結ガンバローで総会は終了した。